わったー まちの話題

クリード西原
マリンパークHP

4月19日 海水浴の季節がやってきた！きらきらビーチ海開き

快晴の中、西原きらきらビーチで海開きが行われました。海開きのセレモニーにて、きらきらビーチの指定管理者である株式会社クリード沖縄の玉城大地代表取締役社長は「きらきらビーチは年々利用者が増えているが、皆様のおかげで水難事故ゼロとなっている。今年も施設のルールを守り、楽しんでいただきたい」とあいさつしました。

正面入口の特設ステージでは、太鼓演舞やダンスショー、ビーチでは宝探しゲームやバナナボート無料体験など、親子で楽しめるイベントで賑わいました。

初泳ぎを楽しむ女子児童は「みんなで入れてうれしいし、楽しい」と声を弾ませていました。

4月20日 サッカーの魅力を体感！ACT PROJECT 2025 in 沖縄

第5回 ACT PROJECT 2025 in 沖縄が西原町民陸上競技場で開催されました。このイベントは、サッカー選手のセカンドキャリアについて知ってもらうことで、夢にチャレンジする人を増やすことを目的としており、会場には元日本代表を含む18名の選手や来場者約500名が集まりました。

ACT PROJECT 加藤大志代表は、「今日、サッカー選手のリアルなプレイを間近で観て、教えてもらい、みんなが世界へ羽ばたいてほしいと思います」と話しました。

小学生を対象としたサッカー教室やミニゲームでは、選手と一緒にプレーをしながら、楽しくサッカーの魅力を体感していました。参加したこども達は「プロの技術を学べて良かった」と喜んでいました。

また、西原高校男子サッカー部との試合もあり、両チーム一歩も譲らない白熱した戦いを繰り広げました。さらに、セカンドキャリアトークでは、サッカー選手引退後の現状について語り、こども達の夢を後押ししていました。

岡野 雅行 氏

巻 誠一郎 氏

ハーフナーマイク 氏

4月22日 JAおきなわ親子健康手帳ケース贈呈式

JAおきなわより、親子健康手帳ケース300冊の寄贈がありました。親子健康手帳ケースのデザインは毎回変わっており、今年はクジラやウミガメなどの海の生き物が描かれています。

JAおきなわ西原支店の砂川剛支店長は「今年が9回目の寄贈ということで、これからも継続していけるよう頑張っていきます」とお話ししました。

親子健康手帳ケースのデザイン▶

4月24日 空高く舞い上がれ！鯉のぼり掲揚式

西原町社会福祉協議会による第18回手づくり鯉のぼり掲揚式が西原町社会福祉センター前で行われました。町内から100人あまりの園児が集まり、会場は活気に溢れていました。

西原町社会福祉協議会の新垣正祐会長は「今回はいっぱい太陽も出ているので、元気よく、鯉のぼりを揚げましょう」とあいさつをしました。

掲揚式では、園児たちが力いっぱいひもを引き、鯉のぼりを掲揚したほか、元気よくダンスを披露し、みんなで健やかな成長を願いました。

4月26日 第17回「梅の香り」うた遊びファイナル大会

「第17回梅の香りうた遊びファイナル大会」（「梅の香り」うた遊び大会実行委員会・小那覇自治会主催）が小那覇児童公園で開催されました。

このイベントは、「梅の香り」の作曲家である新川嘉徳氏の出身が小那覇であることにちなんで、小那覇地域で「梅の香り」を保存、継承、発展させ、後世に歌い継ぐことを目的に2002年から開催されています。

今大会では県内外から34組の応募があり、選考された20組21名が出場。小那覇児童公園に建立されている「梅の香り」の歌碑の前に設置された特設ステージで、出場者は日頃の練習の成果を披露しました。

厳正な審査の結果、石川未侑さん（沖縄県立芸術大学4年生）が大賞に輝き、「歌う時に足が震えるくらい緊張しましたが、練習に励んだ甲斐があったかなと思います。今日駆けつけてくれた先生をはじめ、家族や友人にも感謝しています」と喜びを語りました。

今回で最後の大会となりましたが、「梅の香り」うた遊び大会実行委員会は、今後「梅の香り」うた遊び大会の24年にわたる活動を記録誌として作成し、保存継承する予定です。

第17回「梅の香り」うた遊びファイナル大会受賞者
大賞　石川未侑さん　特別賞　佐野明さん
優秀賞　真喜志夏生さん　奨励賞　内間平さん

文化財コラム 沖縄戦から80年～運玉森からみる激戦地～

太平洋戦争末期、沖縄が戦場になってから今年で80年になります。

昭和20（1945）年、米軍は3月26日に慶良間諸島に、4月1日には、読谷・北谷の海岸から沖縄本島へと上陸しました。一方、日本軍は海岸での交戦を避け、首里城地下の第32軍司令部壕を中心とした宜野湾村（現：宜野湾市）、浦添村（現：浦添市）、中城村、西原村（現：西原町）、真和志村（現：那覇市）の首里以北5㎞に陣地を構え、持久戦に備えていました。米軍は上陸後、4月3日には東海岸に達し本島を南北に分断、4月8日には嘉数高地を始めとする日本軍の陣地に到達し、激戦となっていきます。西原でも、千原のイシグスク（米軍呼称：ロッキークラッグス）から、5月中旬に運玉森（米軍呼称：コニカルヒル）が陥落するまで激戦が繰り広げられていくことになります。

運玉森の頂上から北側を見ると、米軍が上陸した海岸線、嘉数高地、前田高地、棚原グスク等中部戦線の主な激戦地を見渡すことができます。また、西側には、首里城とシュガーローフ（現：那覇市おもろまち）の位置を確認することもできます。このことから、東側の運玉森、西側のシュガーローフが、首里城地下の司令部壕を守る最後の砦であり、激戦地となったことがわかります。米軍が百万ドル分の砲弾を撃ち込んだという運玉森の頂上に立ち、砲弾が飛んできて各地から爆煙があがっていたであろう当時の景色を想像すると、戦争の怖さを改めて考えてしまいます。

6月の平和月間中は、西原町役場・西原町中央公民館・西原町立図書館でそれぞれ平和企画展や資料展が開催されます。戦後80年目のこの機会に、激戦地だった西原で何があったのか、当時の西原で暮らす住民の方がどのように巻き込まれたのか改めて皆さんも学んでみませんか。（※開催内容・日程については西原町平和月間のページ参照）

※運玉森の頂上へは、与那原町側から階段を上っていくことができます。西原町側は一部私有地があることや危険な場所もありますので、立ち入らないようお願いします。

参考文献：『沖縄県史各論編第6巻沖縄戦』/沖縄県教育委員会
『戦史叢書沖縄方面陸軍作戦』/防衛庁防衛研究所戦史室

お問い合わせ：文化課 文化財係　TEL:098-944-4998

マイナンバーカードをお持ちの方は、土日でも、役場にいかなくても、コンビニで住民票等が取得できます！